

COVID-19による生活様式の変化により、例年と比較して流行が不規則となる可能性が 『小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン2021』一般販売開始

株式会社協和企画（代表取締役社長：高橋直武、本社：東京都豊島区）は、6月22日より、『小児RSウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン2021』の販売を開始しましたので、お知らせいたします。

【概要】

- ◎ **監修**：吉原重美、森岡一朗、岡田邦之、戸石悟司
- ◎ **作成**：日本小児呼吸器学会、日本新生児成育医学会
- ◎ **発行**：株式会社協和企画
- ◎ **定価**：本体4,300円＋税
- ◎ **体裁**：B5判、本文168ページ



【本書が作成された背景】

RSウイルス（RSV）感染症の重症化を抑制する目的で投与されるパリビズマブについて、日本小児科学会と関連9学会の協力により、2019年4月に「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」（※許可を得て本書に収載しています）が作成されました。一方で、RSVは乳幼児の呼吸器感染症の主な原因ウイルスであり、早産児や慢性肺疾患を有する児では重症化しやすいことが知られています。そこで、日本小児呼吸器学会と日本新生児成育学会では、日常診療で参照できるより詳細な解説書として本書を作成しました。

【本書の特徴】

小児RSV呼吸器感染症診療に必要とされるさまざまな事項について、専門家が客観的な立場から解説しています。特に、パリビズマブの有効性など予防・治療法を中心としたクリニカルクエスチョン（CQ）を選定して推奨レベルを決定しています。臨床医への道を歩み始めた先生方はまさに指針として、ある程度経験を積まれた先生方はご自身の知識の確認や修正のためにご活用いただけます。

【掲載されているCQ】

- CQ1：早産児のRSウイルス細気管支炎の予防にパリビズマブは有効か？
- CQ2：慢性肺疾患の治療を受けた新生児、乳児、および幼児において、パリビズマブを投与すると、投与しない場合と比べて、RSウイルス感染症による入院を減少させるか？
- CQ3：RSウイルス細気管支炎にステロイドは有効か？
- CQ4：RSウイルス細気管支炎にβ₂刺激薬は有効か？
- CQ5：RSウイルス細気管支炎に抗菌薬は有効か？
- CQ6：RSウイルス感染後の反復性喘鳴にロイコトリエン受容体拮抗薬は有効か？

※注文は全国の医書取扱書店、また弊社ホームページにて承ります。

本リリースに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社協和企画 〒170-8630 東京都豊島区東池袋 3-1-3
担当：提箸（さげはし） e-mail:sage@kk-kyowa.co.jp